

新しい時代のグローバル女性リーダーを育成する



お茶の水女子大学(東京都文京区)は1875年(明治8年)に創立し、2025年(令和7年)には150周年を迎えます。わたしたちは、長年にわたる国内外で活躍する女性人材を輩出してきた伝統と実績に基づき、すべての女性に、その年齢・国籍にかかわらず、個性を

の尊厳と権利が保障され、自身の学びを深化させ、主体的に自己の資質能力の開発にチャレンジすることを支援していくため、「学ぶ意欲のあるすべての女性にとって、真摯な夢の実現の場として存在する」ことを大学のミッションとしています。

本学のミッションの実現とSDGsに配慮した未来の地球環境を守る教育・研究をさらに推進し、新しい時代のグローバル女性リーダーの育成を進めていくとともに、社会貢献活動を充実していくことにより、世界を持続可能な社会へと発展させていきます。



【今】 ⑧大学本館 ⑨大学正門



【昔】 ⑧東京女子師範学校落成式に参加する学生 (昭和11(昭和6年) ⑨大学正門 (昭和11(昭和6年))

「真摯な夢 実現の場」



佐々木泰子学長
メッセージ

「自由な雰囲気」本学の強み
まずは1歩踏み出し挑戦を

お茶の水女子大学は、1875年に創立し、150周年を迎えます。本学は、日本の女子高等教育の発展に貢献し、国際的に活躍する女性リーダーを育成することを目指しています。本学は、女子高等教育の発展に貢献し、国際的に活躍する女性リーダーを育成することを目指しています。本学は、女子高等教育の発展に貢献し、国際的に活躍する女性リーダーを育成することを目指しています。

お茶の水女子大学の沿革
明治8年(1875) 東京女子師範学校開校
18年(1885) 開校場所は「御茶ノ水」とよばれていた現在の文京区湯島一丁目
19年(1886) 東京師範学校に合併され、東京師範学校女子部となる
23年(1890) 師範学校令により、高等師範学校女子部となる
41年(1908) 高等師範学校から分離し、女子高等師範学校を設立
大正12年(1923) 関東大震災により校舎焼失
昭和7年(1932) 現在地(文京区大塚二丁目)に移転
昭和14年(1939) 国立学校設置法公布・施行により、お茶の水女子大学を新設
平成16年(2004) 東京女子高等師範学校は同大学に包括(昭和27年に廃止)
国立大学法人法により、国立大学法人お茶の水女子大学に移行

※令和4年度から開始する第4期中期目標期間に関する記事については、掲載済み(令和4年3月)の状況に基づいた記載となっています。

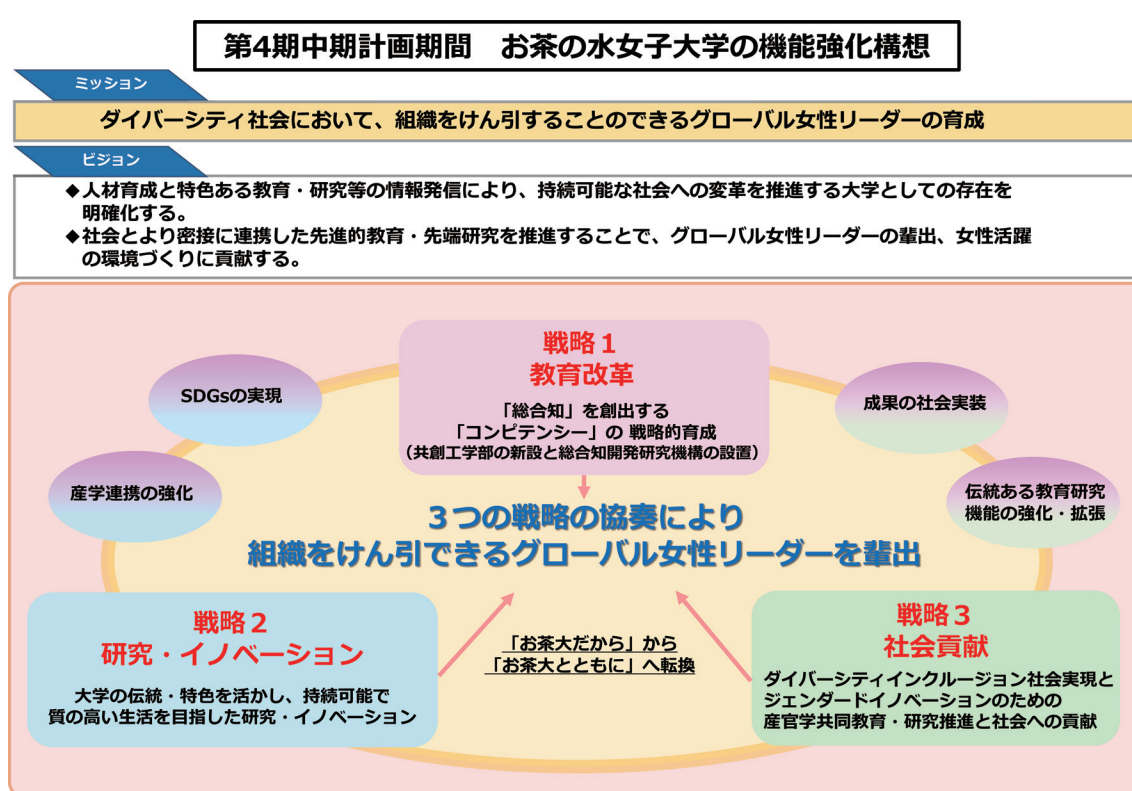
「第4期中期目標・計画期間について」



森田育男理事・副学長
総務・評価・研究・大学改革担当

お茶の水女子大学の第4期中期目標・計画期間(令和4年度から令和7年度)について、グローバル女性リーダーの育成を推進することにより、持続可能な社会への発展に貢献することを目指しています。

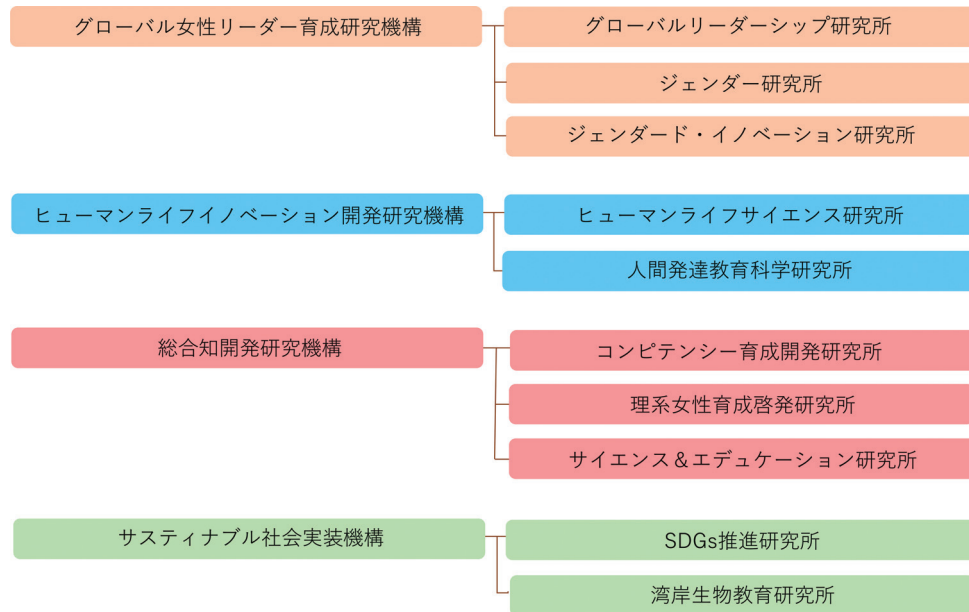
戦略1として、「教育改革」を進めています。本学は、国公立大学として、教育の質を向上させることを目指しています。本学は、国公立大学として、教育の質を向上させることを目指しています。本学は、国公立大学として、教育の質を向上させることを目指しています。



戦略2として、「研究・イノベーション」を進めています。本学は、国公立大学として、研究の質を向上させることを目指しています。本学は、国公立大学として、研究の質を向上させることを目指しています。本学は、国公立大学として、研究の質を向上させることを目指しています。

戦略3として、「社会貢献」を進めています。本学は、国公立大学として、社会貢献の質を向上させることを目指しています。本学は、国公立大学として、社会貢献の質を向上させることを目指しています。本学は、国公立大学として、社会貢献の質を向上させることを目指しています。

新たな智を生み出す研究組織



グローバル女性リーダー育成研究機構
長年にわたるジェンダーおよびグローバルリーダーシップに関する研究・教育・実践を一層発展させることで、女性が活躍できる社会の実現を目指します。新機軸として、ジェンダード・イノベーション研究を立ち上げ、これまでの多くの分野の成果をジェンダー視点から見直し、解析を行い、全ての人の生活向上に寄与する新たなイノベーションの創出を目指します。

ヒューマンライフィノベーション開発研究機構
これまで高い研究成果を挙げてきた同機構ですが、今後望まれる健康長寿社会の実現および持続可能な社会・環境を形成するエコシステムに資するため、同機構を再編し、企業・研究機関等と連携し先端研究拠点を形成するとともに、知的財産創出や具体的アウトカムを設定した実装型研究を推進します。「こころ」と「からだ」と「食」の三面からフレイル/未病に着目した革新的な健康イノベーションを促進する計画です。

総合知開発研究機構(新設)
社会の革新には教養知と専門知に実践知を結びつけた「総合知」を備えた人材が必須です。本機構では総合知を獲得するためのコンピテンシー育成を戦略としています。コンピテンシーとは課題を発見し知識やスキルを状況に応じて組み合わせるなどして社会の場で成果をあげる包括的能力とその行動特性です。

サスティナブル社会実装機構(新設)
持続可能な社会の創成には、社会全体でSDGs達成を推進することが必要です。そのための人材育成を目的に本機構を新設し、SDGs教育・研究プログラムを企画・実行していきます。喫緊の社会課題解決のための研究・イノベーション拠点を構築し、文理を越えた先端研究の推進により、SDGsの理念である「誰一人取り残さない、持続可能な社会の実現」を目指します。

また、以上と並行し、持続的社会的発展に不可欠な工学知を持つ女性リーダーの活躍促進に寄与するため、工学と人文・社会科学間が協働する新たな工学分野を創り出す、「共創工学部(教職、令和6年度予定)」の設置も計画に含まれます。工学知識や技術に人文・社会系の知を協働させる新たな「工学知」を有する女性人材を養成します。

グローバル女性リーダー育成研究機構

グローバルリーダーシップ研究所
基幹研究院 人間科学系 小林誠教授



グローバルリーダーシップ研究所は2015年に設置され、グローバルな視野をもって多方面に活躍する女性リーダーの育成のための教育・研究を行っています。キャリア支援の授業を担当し効果測定を行い、リーダーシップをコンピテンシー概念に基づいて分析しています。また「お茶大インデックス」を一般公開し、さまざまな大学の男女共同参画の実態を数値的に分析しています。

ジェンダー研究所
基幹研究院 人文科学系 戸谷陽子教授



ジェンダー研究所は、日本におけるジェンダー研究の国際的研究拠点として、研究プロジェクトの実施、国際シンポジウムやセミナーの開催、学術雑誌の刊行、教育プログラムの実施、国際的学術ネットワークの構築、研究成果の発信と社会還元を推進しています。

1975年設立の女性文化資料館を前身とし、女性文化研究センター(1996年)と改称しつつ、長らく時代とともに日本におけるジェンダー研究・教育の発展を築いてきました。2003-2008年には本学の「ジェンダー研究のフロンティア」が21世紀COEプログラムに採択され、文芸研究我が国のジェンダー研究の最前線を引き上げてきたといえます。

お茶の水女子大学創立140周年の2015年以降は、本学「グローバル女性リーダー育成研究機構」を構成する研究所として、大学ミッションであるグローバル女性リーダー育成機能強化にも積極的に取り組んでいます。

ジェンダード・イノベーション研究所
石井千鶴子 理事・副学長



本学は長きにわたる国内外で活躍する多くの女性リーダーや研究者を輩出してきました。この重要なミッションを強化するために2015年に設立したのが「グローバル女性リーダー育成研究機構」です。この機構内に「ジェンダー研究所」と「グローバルリーダーシップ研究所」を設置しましたが、2022年4月からは「ジェンダード・イノベーション研究所」を新設します。

この日本初の研究所ではこれまで主に男性目線で開発されてきた製品やサービスに対して、ジェンダー差の視点を取り入れることにより、多様性と包括性をもつ自然・応用科学および社会科学分野の研究を行い、その成果を基に女性にやさしい技術開発を産学連携により推進します。

ジェンダード・イノベーション研究所の活動を通して、本学の強みであるダイバーシティインクルージョンを拡大させ、女性の活躍促進やウェルビーイングの向上に貢献します。ジェンダーに関連した3つの研究所を持つ大学は世界的にもまれで、これらの研究所の活動を通して、本学が世界の女子大におけるジェンダー・リーダーシップ・イノベーション研究のハブ組織となることを目指しています。

ヒューマンライフィノベーション開発研究機構

ヒューマンライフサイエンス研究所
基幹研究院 自然科学系 藤原肇子教授



ヒューマンライフサイエンス研究所は、ヒューマンライフィノベーション開発研究機構の下に設置された2つの研究所のうちのひとつで、2022年4月より、これまでのヒューマンライフィノベーション研究所から名称を変更し、新たなスタートをきることになりました。本研究所は、生化学・代謝学、食品科学、栄養科学、健康科学、遺伝学、発生学・進化学等を研究テーマとする学内教員が中心で、人々が生涯を通じて健康で豊かな生活を送ることを目標とし、少子高齢化社会における諸問題に対して「こころ」と「からだ」の両面から研究を行っています。新体制では特に、食科学研究が文理融合研究の橋渡しとなることで、本研究のライフサイエンス系系域科学研究や、機構のもう一つの研究所である人間発達教育科学研究所の心理学分野と連携し、ウェルビーイングを目指した研究を推進していく予定です。

人間発達教育科学研究所
基幹研究院 人間科学系 大森美香教授



人間発達教育科学研究所は、本学の人間発達科学に隣接する学内教員を組織し、人間の発達や教育に関する総合的国際的研究拠点を構築することをめざしています。子どもの発達過程の解明や良い教育・保育・教育の提案を目的として、2022年に設置された「子ども発達研究センター」を前身とし、2003年度に文部科学省認可の「子ども発達教育研究センター」となり、数度の改組を経て「人間発達教育科学研究所」が誕生しました。本学「ヒューマンライフィノベーション開発研究機構」傘下の研究所として、「保育・教育実装研究部門」「人間発達発達研究部門」「発達臨床支援研究部門」の3部門で研究活動を推進しています。機構のもう一つの研究所であるヒューマンライフィノベーション研究所との文理融合研究にも取り組み、コアコンテツツ「生活習慣病」「炎症性疾患」「発達障害」を中心に、各ライフステージのこころとからだに関わるさまざまな研究を国内外に発信しています。

サスティナブル社会実装機構

SDGs推進研究所
基幹研究院 自然科学系 藤原肇子教授



SDGs推進研究所は、2022年4月よりサスティナブル社会実装機構のもとに新設される研究所です。本学の特色である生活科学・生活環境科学・ジェンダー・食などを研究テーマとする教員が組織され、食品ロスや食糧問題、資源のリサイクル、エコシステムや、行動科学、消費者教育、ジェンダーと女性活躍などを中心に、持続可能な社会への貢献を目指した研究を推進します。これらを通して大学や大学院で教育実践するだけでなく、ナースから幼少中高まで同一キャンパスにある地の利を生かして、幼少期からの大学までのSDGs一貫教育プログラムの開発も目指しています。また、本研究所は本学のSDGs実践活動を統合する拠点として、学内のみならず、地域社会・企業や自治体等との連携調査を担う機関であり、共同研究やインターナショナルなどを通して活動支援を行っています。

海岸生物教育研究所
基幹研究院 自然科学系 清水正人教授



海岸生物教育研究所は、海岸域の生物と環境に関する研究と教育を推進し、学問の発展に寄与するとともに、フィールド・フロントエンドでの教育活動を通して、社会の自然科学や環境に対する理解を深めることを目的としています。千葉県船橋市の施設は、1970年に理学部附属臨海実験所として設立され、2004年には学内共同教育研究施設として海岸生物教育研究センターに改組されました。2022年からはサスティナブル社会実装機構に附属する研究所として、SDG14のゴールである「海の豊かさを守ろう」の重要性について啓発するための活動に取り組む、潮間帯から深海までの幅広い環境に生息する動植物の発生、進化、生態、保全にかかわる研究を推進していきます。文部科学省の教育関係共同利用拠点にも指定されており、多くの大学や中高にも臨海実験の場として利用されており、生物実験材料の維持と輸送を改善した海産バイオリソースは全国の大学や学校に提供されています。

総合知開発研究機構

コンピテンシー育成開発研究所
坂元章 副学長・附属学校部長



社会の場において高い業績をあげる人に観察される特性をコンピテンシーと言います。近年の教育は、従来のアカデミックな学力の獲得から、こうしたコンピテンシーの向上にウェイトを置きつつあるように見えます。コンピテンシー育成開発研究所は、このようなコンピテンシー・ベースの教育の推進や研究のため、2022年度より設立されるものとします。本研究所では大きく分けて2つの活動を想定しています。1つは、教育学マネジメント組織として、本学におけるコンピテンシー教育の実践を拡大したり、その成果を学生が把握できるシステムを導入したりするなどして、本学学生のコンピテンシーの向上を図ることです。もう一つは、研究機関として、幼児期から大学期までのコンピテンシーに関する研究と成果の発信を行うことです。本学附属学校における研究によって、効果的な育成方法を明らかにし、段階的教育に関するモデルを構築することを目指しています。これらの取り組みによって、本学のみならず、全国の他機関の教育改革に資することを目指します。

理系女性育成啓発研究所
加藤美砂子 副学長・附属図書館長



理系女性育成啓発研究所は、第3期中期計画の期間に蓄積された成果をさらに発展させ、女子学生・生徒の理工系分野の選択促進および理工系人材の育成に資することを目的としています。令和2年12月に閣議決定された第5次男女共同参画基本計画の中に謳われている科学技術・学術における男女共同参画の推進に貢献すべく、次世代を担う女性の科学技術人材の育成を目指します。我が国の理工系女性人材の層を厚くするために、初等・中等教育において女子生徒が理工系分野に興味や関心を抱く機会を設定すると共に、女子生徒の関与で進路選択に大きな影響を与える保護者および教員に対して、理工系分野への進路選択について理解を促進させる活動を行います。また、理工系で学んだ後のキャリアパスを考えた機会も提供します。多様な取り組みが、理工系女性の活躍の促進につながる、我が国の未来を支えることを期待しています。

サイエンス&エデュケーション研究所
基幹研究院 自然科学系 千葉和義教授



サイエンス&エデュケーション研究所は、サイエンス&エデュケーションセンターを前身としており、不思議? 発見! 感動! の科学文化の醸成を目指し、理科・科学教育とサイエンスコミュニケーションの研究実践活動を行っています。センター設立時には、「教員養成GP:平成17-18年度」に採択され、東京都50の区市町村教員を集めて、理科教育指導者を養成しました。また東京都北区、港区、文京区では、継続して理科教員研修と出前授業を実施しています。さらに株式会社JHI等の企業と連携して、理科・科学教育を推進しています。東日本大震災等の被災地への理科教育支援活動にも取り組んでおり、最近では、コロナ等の災害で遅れている理科教育を、教材開発と実践で支援しています。きつづき、本研究所では、理科教育とサイエンスコミュニケーション分野で活躍する教員が構成員となり、産官学との連携で多様な事業を推進しています。